

きずな

NO. 202 2019-12

こんにちは **日本共産党**

中村れい子 市政報告です



発行：日本共産党高槻市議員団 市会議員・中村れい子 事務所/☎569-1114 高槻市別所中の町3-7 ☎681-8480 自宅/古首部町2丁目15-8-606 ☎685-6686



敬老無料パスを70才を75才からにする

案が示される

市営バス無料乗車制度の新しい仕組み案

表1

	70歳から74歳まで 【高齢者割引乗車制度】	75歳以上 【高齢者無料乗車制度】
市民	100円	無料
市（一般会計）	50円	150円
交通部（自動車運送事業会計）	50円	50円

4日の福祉企業委員会協議会で、無料の年齢を70才から75才にすること。70才から74才を1回100円負担する「高齢者割引乗車制度」が示されました。（表1）無料制度を75才からにするのは、対象年齢を段階的1才ずつ引き上げ、完全に75才からになるのは2030年度との報告がありました。（表2）

今後の予定として、来年3月に市議会に提案します。通れば1年かけて市民に周知し、2021年度から始まり10年かけて移行していく予定です。障害者無

表2

生年月日	令和元年度	2年度	→見直し制度開始								→制度完成	
			3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
S25.4.2 ~ S26.4.1	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳	80歳
S26.4.2 ~ S27.4.1	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳
S27.4.2 ~ S28.4.1	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳
S28.4.2 ~ S29.4.1	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳
S29.4.2 ~ S30.4.1	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳
S30.4.2 ~ S31.4.1	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳

※白文字は無料制度の適用年齢を示す

（表1、2は協議会での市の資料）

料乗車証は検討の結果、現行制度を維持するとしています。



想定外の災害、地球温暖化対策を早急に

65 中村れい子

世界の大型化した災害は地球の温暖化が大きく関わっています。日本では大型の台風が何度も日本列島を襲い、特に19号の被害は目を疑うような甚大なものでした。

堤防が崩れその上にある住宅が流されるなど大きな被害、亡くなられた方が100人近くおられました。川の堤防が壊れる「決壊」が発生したのは11月12日時点で7つの県の合わせて71河川、140か所。また、全国で8万棟を超える住宅が、水につかたり全半壊したりする被害を受けました。

国連気候変動サミットでは、77カ国が2050年までに温室効果ガスの排出量ゼロを約束し、70カ国が20年までに国別目標を引き上げ累市を表明しています。それに比べて日本は、主要国で最低レベルで二酸化炭素を出す火力発電の計画が進んでいるのは22基もあり排出量は世界第5位です。



審議会で市バスの将来収支予測を示す

5回目の高槻市自動車運送事業審議会が、11月27日に開催され、市バスの今後10年間の収支の見通し、経営の基盤強化策が資料として提出されました。

市営バスが健全に運営できるのは、市が13億4千万円の乗車料を100%負担する場合、市が75%、市バスが25%負担する場合です。健全運営を維持す

とが、市の値打ちならどこかが負担することになる。「敬老パスは市バスの事だけを考えるのではなく、市全体のことでも考える必要がある」「70才を75才にすることは総合的な判断、横のつながりで考えないといけない」等の意見が出されています。

市バスは公営企業なので法律に基づき、国に対して今後10年間の収支の均衡がとれた運営ができるという資料を提出するために審議会に図っています。

シミュレーションは、大きく4パターンで細かく10ケースが示されました。

パターン1の、補助金は現状のままという「成り行き」では3億9千万円の赤字になるとしています。

2は、山間部の原大橋以北の檜田地域、萩谷線は関西大学以北、上成合以北の成合・川

3は、山間部の路線を含めて今の路線を維持するものです。そのうち、敬老パスの乗車料ICカードで明らかになった13億4千万を、市が100%補助するケース、75%の10億円を補助するケース、50%の4億1千万円では高齢者の自己負担25%を求めていますので、利用者が40%、30%、20%減ることも想定しています。

第4は、山間部の縮小、補助金が100%、75%、50%になるそれぞれのケースを示しています。

シミュレーションパターン 表1

検討項目		高齢者無料乗車制度	生活交通路線維持事業
パターン			
①現状のまま		現状維持（年間6億円の市補助）	現状維持（75%補助）
②事業効率化	a. 山間3路線縮小	現状維持（年間6億円の市補助）	縮小路線は補助なし
③路線維持	a. 市100%負担	運賃相当額を100%市が補助	現状維持（75%補助）
	b. 市75%、市バス25%負担	運賃相当額を75%市が補助	現状維持（75%補助）
	c. 市50%、市バス25%、利用者25%負担	運賃相当額50%を市が補助+高齢者から料金徴収	現状維持（75%補助）

ケース別シミュレーションパターン 表2

2030年予測数値		経常損益（百万円）
①現状のまま		-396
②事業効率化	山間3路線縮小	-354
③路線維持	a. 市100%負担	341
	b. 市75%、市バス25%	7
	c. 市50%、市バス25%、利用者25%	-394



した。70才からの敬老無料パスの維持が求められます。審議会は今年25日に、これまでのまとめをし、答申の素案を審議することになります。来年1月17日に答申書をまとめ、2月に提出します。

市会議員 **中村れい子**

市政相談日は 毎月、第2土曜日です

場 所：中村れい子事務所 時 間：朝10時～昼12時まで
別所中の町3-7 TEL 681-8480/自宅 TEL 685-6686

事前に必ず連絡を
ください